

「やさしいまち」

もし、どんなまちに住みたいかと聞かれたら、きっと、住みやすいまちに住みたいと答えるだろう。

では、住みやすいまちとは何だろう。一般的に住みやすいまちとは、きっと、きれいで、安心して暮らせるまちを指すのだろう。この2つさえクリアすれば、多くの人が住みやすいというのではないだろうか。

そこで、住みやすいまちをつくるために、「やさしいまち」というテーマを考えた。これは、2つの意味があり、一つ目に人にやさしいまち、二つ目に環境にやさしいまちだ。

人にやさしいまち。つまり、安全で、安心して暮らせるまちのことだ。私達は何気なく生活しているなかで、目に見えていても気づかない障害物がたくさんある。知覚障害者やお年より、幼児の立場に立って初めて気が付くことばかりだ。例えば放置自転車、踏み切り、道路等。全ての公共物が目に見えて気づかない障害物ではないだろうか。だからといって、これら全てをなくすことはできないが、なくす努力はしたい。

そこで、私は見える障害物を全て隠してはどうかと考えた。危険と思われるものを全て地下に収納するのだ。

1つ目は放置自転車だ。去年、福岡市は全国放置自転車No.1になった。自転車を停める人は必ず、停めたい場所に停める。放置自転車の数は、その場所に駐輪所を造ってもらいたと思っている人の数だ。そこで思い切って駐輪場を造ってみてはどうだろう。

例えば、自転車専用地下エレベーターだ。これは、100円パーキングの料金システムを利用し、自転車を歩道の地下に隠すのだ。自転車を歩道におき、駐車券を発行し、ボタンを押すとエレベーターのように下に移動する。取り出すときは、駐車券を入れたら上がってくるような仕組みだ。

こうすれば、通行人の邪魔にもならず、置きたい場所に自転車が置けるはずだ。

2つ目は踏み切り。踏み切りでの事故が多発しているのが現状だ。この事故は、本人の不注意で起こることが多い。しかし、防ごうと思えば防げる事故なのではないだろうか。

例えば、踏み切りを全て撤去する。そして、線路の下に車道や歩道を設けることに統一するのだ。線路を立体構造にするのもいいし、地下に車道や歩道を設けてもいい。

そうすれば、電車との接触事故はなくなると思う。

また、個人的に地下街を増やしたい。地下街は車の多い天神地区では欠かせない物。普通に路上を歩くと長く感じる道が、地下街は楽しく感じる。さらに、西通りは、土日だけでも自転車と歩行者だけのみちにして欲しい。車道を自転車が、歩道を歩行者専用道路として。

では、環境にやさしいまち。つまり、きれいなまちのことだ。至るところに、ごみのポイ捨てが目立ってきている。そこで、おもにゴミをなくすことを考えた。まちからごみばこを全て撤去して、ごみを持ち帰る習慣をつける。環境面に関しては、まず、小さなことから始めることが大事だ。

以上が私の提案だ。観光で来た人達からやさしいまちと言われるようなまちづくりができればいいと思う。